

学校における体罰等の再発防止に向けた方策について

令和8年2月
秋田県教育委員会

1. 雄物川高校における事案の概要

- 令和7年9月、雄物川高校男子バレーボール部において、監督であった宇佐美 大輔（教諭・46歳）により、長期間にわたって部員への体罰・暴言が行われてきたことが明らかになった。
- 当該教諭：免職、校長：戒告、教頭：訓告の処分を行った。
- 平成28年度にも、体罰・暴言により「訓告」の指導を受けていたが、改善が図られておらず、不適切な指導が継続していた。

2. 過去の情報提供とその対応



調査主体の限界と配慮不足
心理的支配への理解不足
県教育委員会の踏み込んだ対応の欠如

3. 事案に係る要因分析

なぜもっと早期に事実確認ができなかったのか

- ① **調査主体の限界と配慮不足**
 - ・第三者の介入なく、「身内」による調査にとどまっていた
 - ・事実を認めることによる報復への恐怖、圧力への対応
 - ・記名式・書面提出方式で行う「人権アンケート」の限界
- ② **心理的支配への理解不足**
 - ・体罰等に対する認識の歪みと配慮
- ③ **県教育委員会の踏み込んだ対応の欠如**
 - ・複数回にわたる外部からの情報提供の軽視
 - ・調査方法の見直し等の助言や、自ら追加調査を行う等の積極的な介入の欠如

なぜ未然に防ぐことができなかったのか

- ① **勝利至上主義、規範意識の欠如**
 - ・「勝つためには体罰等を含めた厳しい指導が必要」という誤認識
- ② **指導の密室化と抑止力の不在**
 - ・外部の目が届かない閉鎖的環境
- ③ **管理監督機能の不全**
 - ・県教育委員会による継続的かつ直接的なモニタリングの不足
 - ・学校任せの対応
- ④ **研修の形骸化**
 - ・研修受講者に対するフォローアップや効果検証の欠如
 - ・研修を行うことそのものが目的化、「受講＝改善」と安易に判断

4. 再発防止策

生徒や保護者の「声」を 拾う重層的な仕組みづくり

- ・生徒の声を踏まえた、「人権アンケート」の実施方法の見直し
- ・管理職と生徒とが直接コミュニケーションを取る機会を定期的に設定

県教委によるモニタリングの強化

- ・不適切な指導の予兆が見られる教員への指導監督の強化
- ・県教委による指導現場のチェック、指導・助言

「密室化」を防ぐ 開かれた指導体制の確立

- ・複数の指導者による指導体制の確立
- ・保護者等も含めた部活動の積極的な公開

実効性のある研修の徹底

- ・具体的な事例に基づいた実践的な研修の実施
- ・生徒の主体性を引き出す指導法の習得に向けたコーチング研修の充実

**体罰・暴言を根絶し、
すべての生徒が主体的に
生き生きと活動できる
環境の構築**